

現場経験を積んで、 レクを提供したい！

レクの技術スキルアップするために生まれたグループ

静岡県レク協会の事務局には、月1回「さくらドリーム」のメンバーが集まります。

「こんにちは。まずは、今日の時間を確認しましょう」、打ち合わせがスタートしました。この日は6名が参加。午後からグループホームに伺い、レクの時間を担当します。6名のうち、2名がメインでプログラム進行を行い、残り4名はサブとして参加者の中に入り、一緒にレクを楽しみます。そのための事前打ち合わせにメンバーが集まりました。

「こんにちはの歌の動きはどうだった？」「こちから回る？」皆さん、プログラム進行担当の奥山さんが作成したプログラム計画シートをもとに、流れを確認します。一通り確認したところでグループホームに訪問する時間になり移動します。

「レク・ワーカーの時間です。こんにちは！」小澤さんの元気な掛け声でプログラムがスタートしました。歌を歌いながら、グーチョキパーの手指の運動を2、3曲行います。「よい湯だな、アハハ」「あ〜いい運動だね」「汗かいてき

だよ」「おもしろいね」と入所者の皆さんからの声が聞こえます。その後、手作りのマラカスやバンダナを使って体操したり、丸めて投げあったりと徐々に動きがアクティブになっていきました。最後は、好きになった人へ歌って、全員と握手をしながら終わりました。

「こんなに喜んでる姿を見たのは久々です」、レクを楽しんでいる様子を見学していた入所者のご家族が嬉しそうに話してくれました。

現場が終了したら、即反省会です。「緊張して、よ〜こんにちはの歌詞が飛んでしまった」「前回より意思疎通ができた」「歌の歌詞を覚えるのが次回までの課題」、等々それぞれの反省と次回へ向けた課題、改善点などの意見交換が行われました。

福祉レク・ワーカーとして スキルアップしよう！

静岡県では、福祉レク・ワーカーの審査に合格した方たちが集まり、昨年5月におしゃべり会が開催されました。その時、

「現場をもっと経験して、福祉レクの勉強をしよう」とスキルアップのグループを結成。さくらドリームの活動がスタートしました。実際にレクを提供させてもらえる施設を探し、11月から活動がスタートしました。

「最初はメインだか補助だかぐちゃぐちゃで(笑)、役割分担が出来ず、試行錯誤のくり返し。徐々に自分の役割を理解してその上で動けるようになってきました」と、紅林さん。皆さん、月1回の活動でも楽しみに待っていてくれることが励みになっていくそうです。

「5回目を迎えた春ぐらいいから、利用者に変化が見え、無表情だった顔に笑顔が出はじめました。歌声が大きくなり、ひとつひとつに反応する姿がみられるようになりました。入所者が変わりますとスタッフも笑顔になります。レクタイムをきっかけに雰囲気明るくなっていると嬉しいですね」と小澤さん。

お互いのレベルアップを目指しながら、お互いに良い刺激を受けたり与えたり、とても素敵なレク大好き仲間たちが奮闘しています。ガンバレ!!

サクラドリームの皆さん。右から、紅林吉美さん、大沼秋代さん、奥山直子さん、小澤康恵さん(前)、鈴木久之さん(後)、山内早苗さん。



さくらドリーム

静岡県レク協
鈴木義乃さん



「月1回、事務局に顔を出してくれて色々とお話しできたり、色々とお願いもできたりしました。」

陰ながら応援しています!



イラスト：山口みれい